飛騨農林事務所の普及活動状況（令和４年１０月３１日現在）

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■女性農業経営アドバイザー　ＧＬＡＭＡいきいきネットワーク視察研修会の開催

10 月 24 日、白川村にてＧＬＡＭＡいきいきネットワーク視察研修会が、県内の女性農業経営アドバイザーならびに成原白川村長や雨宮岐阜県農政部長など県・市関係者 80 名が参加し、開催された。

研修会は、これまで毎年県内の各地域を持ち回りで開催されてきたが、新型コロナの影響により３年ぶりに今回飛騨地域での開催となったこともあり、久しぶりの再会を喜ぶ姿が見られた。

【視察研修会で記念撮影】

当日は、令和４年度農林水産祭にて内閣総理大臣賞を受賞し、当ネットワーク吉野会長の農場でもある吉野ジーピーファーム白川農場を訪問し、夫婦二人三脚でゼロから養豚経営を発展させてきた吉野社長の経営理念や家畜感染症対策が徹底された白川農場の最新システムを見学した。その後、トヨタ白川郷自然學校にて飛騨地区アドバイザーから、生産や経営のこだわりや農業を楽しくするため取り組んでいることを発表し、大きな盛り上がりを見せた。

研修会の企画や運営は、農業普及課も参画して地元アドバイザーが行ったが、当課では今後も女性農業者組織の活動支援に取り組む。

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■果樹　令和５年版　果樹病害虫防除暦編集会議を開催

10 月 26 日、飛騨農業振興会では毎年発行している果樹防除暦（もも、りんご、なし）について、令和５年版防除暦の作成に向け第１回編集会議を開催した。

【来年度の果樹防除暦を検討】

編集会議には、飛騨農業振興会、全農岐阜、ＪＡひだ、中山間農業研究所、農業普及課が参加し、当課が作成した原案に基づき、今年の病害虫の発生状況やそれらを考慮した令和５年度防除暦の変更案を情報共有・検討した。

今後、検討内容を反映した修正案をＪＡひだ果実出荷組合協議会役員会にて再度検討し、12月の完成を予定している。

農業普及課では、今後も関係機関と連携しながら、栽培技術情報の提供や気象データの収集や病害虫防除暦の作成等を通して、管内果樹生産者を支援していく。

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■水稲　飛騨の美味しいお米・食味コンクールが開催

10月28日、ＪＡひだ飛騨地域農業管理センターにおいて、「第８回飛騨の美味しいお米・食味コンクール」が開催された。

今年のコンクールには、コシヒカリ部門553点、こだわり米部門（コシヒカリ以外の品種）76点、小学校部門５点の計634点が出品された。

【コシヒカリ部門の入賞者】

審査は、食味値と味度値の測定結果を基に選ばれた入賞者（コシヒカリ部門15点・こだわり米部門５点・小学校部門５点）について、実際に炊飯したものを審査員が官能評価し、金賞及び特別優秀賞のほか新人賞やハイスコア賞が選出、表彰された。

収穫時期の長雨など栽培期間を通して不安定な天候で、米作りの難しい年だったにも関わらず、入賞した米は食味値・味度値ともに90点を超える高得点が並んだ。

受賞者は、12月に開催される第24回米・食味分析鑑定コンクール国際大会in小諸に向け、「飛騨地域は日本一のお米の産地とアピールしたい」と抱負を述べていた。

農業普及課では、今後もおいしい米づくりに向け現場での技術支援に取り組む。

■ほうれんそう　清見・高山南合同プロジェクト現地研修会を開催

10 月 12 日、久々野町のほ場にて清見・高山南ほうれんそう部会合同プロジェクトの現地研修会が開催された。

両部会の研究班では、ほうれんそうの高収量、高品質、省力化を目指して例年様々な肥料試験等を行っており、今年度は「地力の乏しい砂地圃場での土壌消毒後作の無施肥（芯枯れ対策）」「屋根散水試験」「休耕しない緑肥の利用方法」をテーマに取り組んだ。

研修会当日は、ＪＡ担当者等から生育の様子や試験結果の説明を受け、参加者により質問や意見交換が行われた。

農業普及課では、引き続き安定したほうれんそうの生産に向け、新たな技術の導入など、関係機関と連携して支援していく。

【現地試験について意見交換】

■パプリカ　島根県の夏秋パプリカ生産者と産地交流

これまでパプリカは輸入品が主体だったが、近年国内産に注目が集まり、飛騨蔬菜出荷組合特産部会飛騨パプリカ班でも生産者７戸が、夏秋パプリカの生産に取り組んでいる。

10 月 17 日には、同じように中山間地で夏秋パプリカ生産を行っている島根県飯南町の農家が視察に訪れ、産地交流としてパプリカ班との意見交換や現地視察が行われた。

意見交換会では、あらかじめ整理した質問内容に基づき情報交換を行ったが、着果の安定化など両産地共通の課題がある一方で、出荷形態や品種選択など考え方の異なる部分もあって、当地域の生産者にとっても大いに参考となった。

農業普及課では関係機関と連携し、夏秋パプリカである『飛騨パプリカ』のさらなるブランド化の支援に取り組む。

【島根県の農家が現地を視察】

■夏秋トマト　低コスト３Ｓシステム説明会の開催

10月24日、低コスト３Ｓシステム説明会を中山間農業研究所の協力のもと開催し、生産者20名と関係機関14名が出席した。

３Ｓシステムは土壌病害の回避と高単収が可能となる安価な養液栽培システムだが、一般的な雨除けハウスに比べれば高価で労働力も必要となるため導入に躊躇する農家もあった。

そこで、３Ｓシステムよりもさらに安価で労働力確保も必要としない『低コスト３Ｓシステム』に改良し、現地実証を実施したことから今回の説明会開催に至った。

当日は、中山間農業研究所から従来の３Ｓシステム、農業普及課から低コスト３Ｓシステムの説明を行った後、双方のほ場を視察しその違い等を確認した。

参加者からは、昨今の資材費高騰により低コストは魅力的であるとの感想もあり、今後は参加者と個別に面談を行って、具体的な導入方針について検討する予定である。

【ハウスでの説明会の様子】

中山間地域を守り育てる対策

■大豆　飛騨市内にて収穫作業が始まる

飛騨市古川町では、水田転作をきっかけに大豆栽培が開始されこれまで地域の水田を守ってきた。

10月19日には、市内大豆生産者からなる古川町大豆生産組合が大豆収穫会議を開催し、本年度の収穫作業について打ち合わせを行い、10月21日から収穫を開始することとなった。

農業普及課では、収穫作業に先立ち本年度の大豆の生育状況を解説するとともに、収穫時期の判定法など適期収穫についての指導を行った。

今年は昨年と同様に生産者によって播種期が大きく分かれため、成熟の進み具合が一様でなく成熟の早いほ場から順次作業を開始する計画で、収穫作業が全て終わるのは11月下旬頃の見込みである。

【始まった大豆の収穫作業】